

このコーナーでは長年、市内の小中学校で教職にあつた蛭田光城さんが市立図書館発行の「成田のむかし」に執筆した成田の昔の暮らしの様子を掲載していきます。

成田ニュータウン②

完成まで6年と

文 蛭田光城

絵 野上和彦

「学校は一つしかたなかったの？」

「うん、最初に向台小学校が開校して、そのあと人々の住み付く様子をみてね。加良部小、中台小、橋賀台小の順に建てられたんだ。このころはね、ニュータウン全域で工事が始まったんだ。表土がけずられて、赤土がまる出しさ。だから大きな風が吹くと、ほこりがまい上がってね、空が黄色に見えたもんだよ。まわりの家はひどかったなア。」

「じゃあ、ずいぶん困ったでしょうね。」

「そう、困ったのはそれだけじゃないんだ。ニュータウンは、成田駅まで約2キロ離れているんだ。市街地に行くのに、交通はバスしかないんだ。昭和47年ごろは、中台と成田駅の間に、バスの折り返し運転が始められたけど、一時間に一本という不便さだったのさ。また、お医者さんもいなくてね。子供が熱を出したりすると、本当に心配だったんだよ。」

「みんな、だまっていがまんしてたの？」

「そうだな、昭和48年になると『成田ニュータウン環境整備促進協議会』ができて、循環バスのことなど、市の方へ強く望んだのさ。しかし住民は約900人しかいなかったから、バス会社では採算が取れるかどうか、危ないところだったのさ。」

「今みたいに、ニュータウンは成田駅とつながっていなかったの？」

「そうなんだ。駅まで2キロもあってね、その間にある囲護台、馬橋、新町、花崎町の一部を含めて、区画整理をしようとしたんだ。ところが住宅地でたくさんの方が住んでいたからね、賛成してもらえらるまで時間がかかったんだよ。やっと昭和49年に、県から許可が下りて、工事が始まったんだ。しかしニュータウンは住む人が増え、昭和49年におよそ3,600人になってね、そこで初めての『納涼盆踊り大会』が開かれたんだよ。」

編集後記

広報課に異動して右も左も分からないまま2カ月過ぎました。いまだにまともな記事が書けません。それでも、取材と校正の繰り返しの中で、月2回の発行ペースにようやくなりました。1070年祭の一連のイベントも終わり、次は「ゆめ半島千葉国体」に向けて取材開始。国体に関わった人たちの今だから話せる裏話や苦労話などが聞ければと思っています。



成田市役所本庁舎（行政棟、議会棟、消防本部、成田消防署）はISO14001の認証登録を受けています。



平成20年6月15日号 No.1125

成田市のホームページ <http://www.city.narita.chiba.jp>